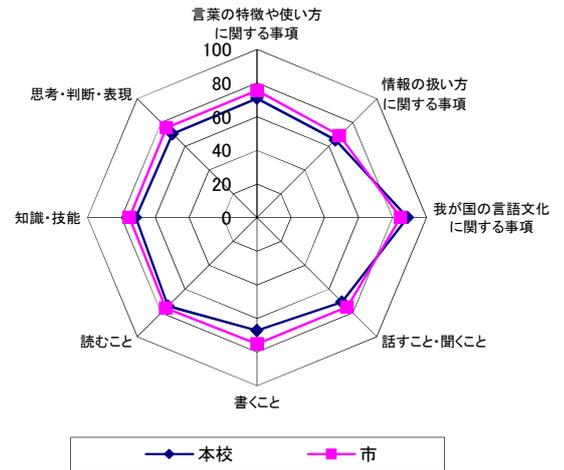


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	65.4	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	71.0	75.3	69.4
	書くこと	67.1	75.2	65.1
	読むこと	74.4	76.2	68.8
観点別	知識・技能	71.5	75.3	66.7
	思考・判断・表現	70.6	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

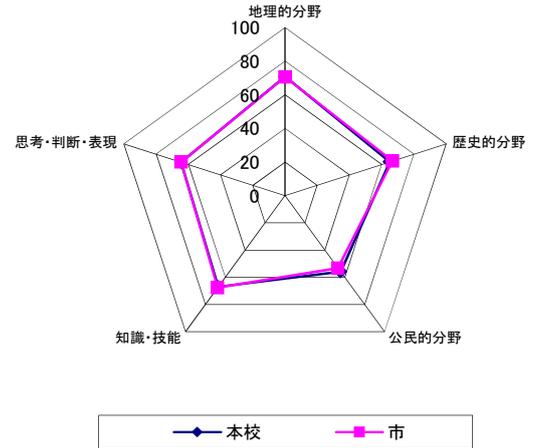
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は70.9%で、市平均を4.7ポイント下回った。 ●漢字の読み書きの正答率が全般的に低く、半数の問題で市の正答率を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・現在も国語科で行っている漢字練習や漢字テストを、継続して行っていく。また、国語以外の教科においても、できるだけ漢字を用いて文章を書かせたり、間違いを丁寧に指摘したりしていくことで、漢字に対する意識の向上を図っていく。 ・授業の読解の指導で、語句の意味や使い方等を丁寧に教えていったり、語彙を増やしていったりすることで、生徒が日常生活の中で使いこなせるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は65.4%で、市平均を3.6ポイント下回った。 ○語数指定のある問題の正答率は、市平均とほぼ同じであった。 ●整理した情報が何を意味するのかを理解し、それを文として表現しようとする問題は、正答率が市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を整理して短い項目にまとめる活動は、生徒の論理的思考力を高めるものであり、国語科にとどまらず様々な教科においてなされるべきである。国語の授業においては、字数制限のもとであらすじを書いたり、長文を要約し、内容を相手に適切に伝えたりする活動を行っていく。また、箇条書きの事項を因果関係で矢印でつないだりすることで、情報を整理する力を養っていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は88.9%で、市平均を4.2ポイント上回った。 ○現代語訳を手がかりに、古典を読むことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いや現代語への書き換え等、基礎・基本のさらなる手着を図っていく。 ・古典の文章そのものだけでなく、当時の時代背景や文化についても触れながら、古典に親しめるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は71.0%で、市平均を4.3ポイント下回った。 ○聞いた話の内容の正誤を問う問題は、良好な結果であった。 ●自分の考えが適切に伝わるように表現を工夫したり、論理的に話せるよう内容を考えたりする問題は、いずれも市平均を5.0ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りテストによって、論理の展開をつかむ指導を今後も継続していく。 ・授業において、自分の考えを言葉として明確に表現できるよう、ワークシートを工夫したり、話し合い活動やプレゼンテーションの機会を積極的に取り入れることで、話す力を育成していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は67.1%で、市平均を8.1ポイント下回った。 ●文章記述の問題は、ほとんどが市平均を大きく下回っており、自分で文章を書くことを苦手としている生徒が多いことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れるとともに、教師がフィードバックすることで、書く内容の質の向上や意欲の高揚を図っていく。また、教科外においても、「宮っ子ダイアリー」に自分の思いを書かせるなど、日常的に書く習慣を付けさせていく。 ・書くことに苦手意識をもつ生徒には、キーワードを組み合わせた短文を重ねたりすることで、少しずつ長い文章が書けるように指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は74.4%で、市平均を1.8ポイント下回った。 ○説明的な文章、文学的な文章のいずれにおいても、正答率が著しく低い問題はなく、おおむね内容を読み取れていたといえる。 ●文学的な文章に比べ、説明的な文章の読解の方が苦手な傾向が見られる。また、文の踏み込んだ内容に関する問題は、正答率がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は読書に消極的で、そのことが大きな原因となっていると考えられる。特に説明的な文章は、日常的に読む経験が少ないため、理解に時間がかかる。小説や物語だけに限らず、新書や新聞を読むことを奨め、論理的な文章のおもしろさに気付かせる。また、授業では、関連する図書や資料を提示するなど、関心をもって読めるよう工夫していく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.8	70.5	62.1
	歴史的分野	64.9	66.6	57.8
	公民的分野	55.9	53.3	45.2
観点別	知識・技能	67.0	67.6	59.2
	思考・判断・表現	64.5	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

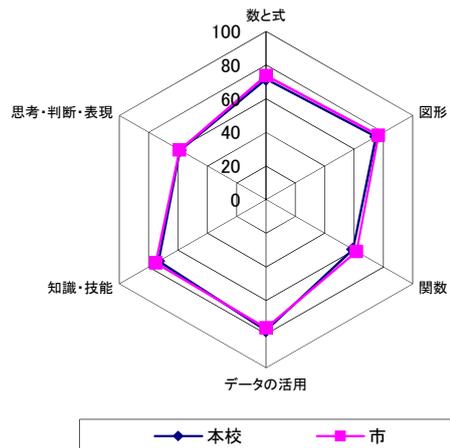
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は70.8%で、市平均を0.3ポイント上回った。 ○地図や資料を読みとったり、地震や地域おこしなど具体的なイメージをもとに解いたりする問題は、正答率が高い。 ●資料から特徴を読み取り、その要因について考察する問題は正答率が低い。 ●1年次の学習内容は、正答率がやや低めである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業で、白地図の着色作業や雨温図の読み取りや作図をしたり、動画やビデオなどを積極的に用いたりしていることで、資料を身近なものにとらえ、事象に対するイメージを頭の中に定着させていることがうかがえる。今後も、基本的な知識を、暗記ではなく、地図や資料から読み取ったり、具体的なイメージをもたせたりすることで、定着させていきたい。 ・資料を読み取るだけにとどまらず、読み取った特徴が何を示しているのかをさらに深く考察させていく。その際、教師側がどのような資料を用いるか、どう問答するかを意識していく。 ・授業等で、1年次の学習内容の復習の機会を設けていく。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は64.9%で、市平均を1.7ポイント下回った。 ○承久の乱、武家諸法度に関する問題は、市平均を大きく上回っている。 ●全般的に学習内容、とくに古代と近世に関して定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古代は、中学校の歴史学習にまだ不慣れな1年生前半で学習した部分で、内容の理解が不十分であることが考えられる。また、近世は、様々なできごとや人物が続けて出てくる部分で、生徒の中で整理しきれないおそれがある。いずれも復習の機会を設け、知識の再確認・補完をしていく。 ・地理的分野と同様、資料を提示する際に、その資料が何を意味しているのか、背景として当時の社会のどのような特徴や背景・側面が見えるのかを、教師の問答等を工夫することで、深く考えさせていく。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は55.9%で、市平均を2.6ポイント上回った。 ○「新しい人権」が生まれた背景を問う問題では、文章記述形式の問題でありながら、正答率が市平均を大きく上回った。 ●公共の福祉、社会権といった基礎的な内容の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○●「新しい人権」は、様々な立場の人の様々な権利をできるだけ認めていこう、という社会の動きから生まれたものである。このことは、生徒の学校生活や日常生活においても実感できるものであり、共感にもとづく理解があるものと考えられる。今後も日常的な事例等を取り上げながら、公民的分野の学習を「社会で生きていくためのもの」と自覚させていきたい。また、基礎的な学習内容の定着に努めていきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.8	73.8	71.4
	図形	74.9	76.7	67.9
	関数	59.2	61.6	52.2
	データの活用	77.8	76.4	65.4
観点別	知識・技能	73.2	75.2	69.9
	思考・判断・表現	58.6	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

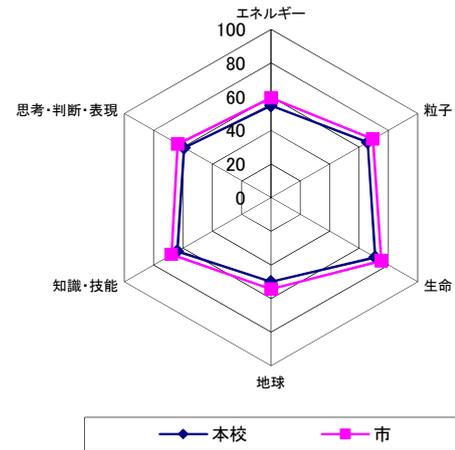
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は71.8%で、市平均を2.0ポイント下回り、参考値を0.4ポイント上回った。 ○基本的な方程式の計算問題の正答率が高かった。また、文章から方程式を立式する問題について、昨年度に比べて正答率が上昇した。 ○●基礎的な計算問題の正答率はおおむね良好であったが、さらに向上が見込めると考えられる。 ●平方根や二次方程式など、3年生の学習内容に関する問題が低調であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算等、基礎的な内容の反復練習の成果が発揮されているものと考えられる。今後も継続的に基礎・基本の定着を図っていききたい。 ・文章から式を立てる問題は、問題文をそのものを理解する力が求められる。今後もさまざまな問題を解くことで、文章から式を立てることに慣れさせていく。 ・3年生の学習内容について復習の時間を取り入れていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は74.9%で、市平均を1.8ポイント下回り、参考値を7.0ポイント上回った。 ○図形の性質を問う問題に関しては、正答率が高かった。 ●図形の角度を求める問題は、参考値を上回っているものの、さらなる向上が可能であると考えられる。 ●角の二等分線の作図の問題の正答率が低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図に関しては、図形の性質そのものを理解していることが不可欠である。ただ描いてみるのではなく、どうしてその作図をするのかを、その都度考えさせていく。 ・角度を求める問題は、類似の問題を数多く解かせることで、実践力を高めていく。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は59.2%で、市平均を2.4%下回り、参考値を7.0ポイント上回った。 ○比例・反比例、1次関数、2次関数の問題は、いずれも市平均・参考値と比較して良好な結果であった。 ●2次関数の応用問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の性質は理解できているといえるので、1次関数・2次関数の応用問題を積極的に解かせ、応用力の向上を図っていききたい。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は77.8%で、市平均を1.4ポイント下回り、参考値を12.4ポイント上回った。 ○ヒストグラムの性質を問う問題、確率の問題は、いずれも正答率が高く、良好な結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で、2つのデータを比較し論述する授業を取り入れたことが、良好な結果につながったと考えられる。問題演習を積極的に取り入れるのはもちろんだが、日常生活の身近な例を取り上げることで、実践的に理解させたい。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.8	59.3	62.1
	粒子	65.8	69.5	66.8
	生命	71.0	75.2	70.9
	地球	50.0	54.4	52.0
観点別	知識・技能	63.8	67.7	67.2
	思考・判断・表現	59.3	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

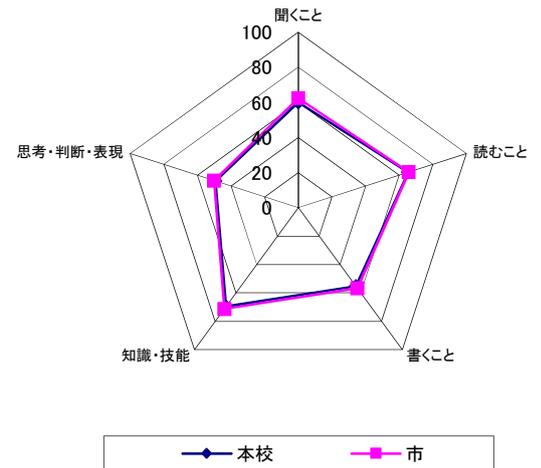
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は54.8%で、市平均を4.5ポイント下回った。 ●光の入射角、鏡で反射した光の道すじ、電流を流したときの方位磁針の針の向きなど、図をもとに性質等を理解する問題の正答率がいずれも低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験においては、実験することのみにとどまらず、結果をどのように表現すればよいかを工夫したり、なぜその結果になったのかを検証したりする時間を確保する。 「磁力線」といった、基礎的な知識の確実な定着を図る。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は65.8%で、市平均を3.7ポイント下回った。 ○「身の回りの物質とその性質」の分野における、メスシリンダーの使い方、密度、物質の性質を問う問題は、正答率が高い。 ●水溶液とイオンの問題に関しては、全体的に正答率が低く、「電離」といった基礎的な語句を問う問題の正答率も低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の確実な定着を図るとともに、原子や分子及び化学反応式については、原子のモデルなどの教材を使うことで、生徒がイメージをもちやすくなるようにする。実験にあたっては、使用する薬品や道具、結果のもつ意義等を丁寧に確認していく。
生命	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は71.0%で、市平均を4.2ポイント下回った。 ●問題全般にわたり、正答率が低くなっている。基礎的な用語等を問う問題も、市平均・参考値には達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的内容の更なる定着を図っていく。単なる知識として覚えることにとどまらず、実験や観察の結果や考察と結び付けるようにすることで、更なる効果を生むものと考えられる。
地球	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は50.0%で、市平均4.4ポイント下回った。 ●問題全般にわたって正答率が低い。とくに「気象の観測」の分野において、大気圧の大きさを計算によって求める問題や、日常的な事例と大気圧の関係を説明する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近に起こる気象現象や地震・火山活動などの自然現象について、日常生活と結び付けて興味・関心を高めさせることで、基礎的内容の更なる定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	60.0	62.4	59.8
	読むこと	65.3	65.7	58.5
	書くこと	55.2	56.8	43.5
観点別	知識・技能	69.6	71.2	65.3
	思考・判断・表現	49.3	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は60.0%で、市平均を2.4ポイント下回った。 ○「対話文の応答」の問題の正答率は、市平均と同じである。 ●リスニングでは、「様々な英文を聞くこと」の項目の正答率が低く、細かい部分に対する聞き取りが不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の帯活動としてのスマールトークを継続する。 授業以外にもALTとのコミュニケーションを図る場面を設け、やり取りを行う中で相手の話している内容を聞き取ろうとする力を身に付けさせる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は65.3%で、市平均とほぼ同じであった。 ○様々な英文の読み取りに関しては、多くの項目で正答率が上回っており、ポスターの内容を読みとることができていたといえる。 ●長文の読みとりでは、メールの内容を読み取る問題の正答率が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業では、教科書以外の長文も扱うことで、読み取る力を習得する活動を継続的に行う。 文法の定着にも力を入れ、前後の単語から推測しながら長文を読むスキルを身に付けさせる。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は55.2%で、市平均を1.6ポイント下回った。 ○3文以上の英作文の正答率は、どれも市平均を上回っており、自分の意見や考えを述べる問題について粘り強く文章表現しようとする姿勢が見られる。 ●対話の流れに沿った英作文は、前後の文脈から話を内容を推測せねばならず、正答率がやや下がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> スマールトークを継続し、自分の分からなかった言い回しをノートに書き留めることで表現の種類を広げ、書く力の向上につなげていく。 テストにおいても、生徒の「表現したい」という気持ちを大事にし、文法的な不十分さが見られても、書くこととしたことを称賛していく。

宇都宮市立若松原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	各学級を単位として自主学習「チャレンジノート」の提出を行っている。	・「学習と生活についてのアンケート」において、平日の家庭学習が3時間以上と回答した生徒は32.9%、休日の家庭学習が3時間以上と回答した生徒は66.5%で、市平均と同程度かそれ以上を占めている。また、「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の項目は、肯定割合がいずれも市平均を上回っており、家庭学習の重要性を認識し、地道に取り組んでいる様子が見えてくる。しかし、家庭学習の内容については、宿題をやったり、授業で課題として出されたワークブックを解いたりすることが中心で、自分自身の現状に応じて学習方法を工夫しようとする意識は希薄である。また、自らの興味・関心を深めるための自主学習や読書を取り入れることで、「学ぶ意義や楽しさ」を実感でき、根底的な学習意欲の向上を図れるものとする。
望ましい学習態度の確立	各教科担任が、生活指導と関連させ、授業に臨む態度を指導している。開始時間の厳守、授業開始・終了時のあいさつ、座る姿勢、人の話を聞く姿勢や態度など。	・「学習と生活についてのアンケート」において、「授業に集中して受けている」「授業の始まりには席に着いている」「授業に必要な学習用具は忘れずに持ってきている」「先生や友人の話をきちんと聞いている」の項目の肯定割合は、いずれも市平均とほぼ同じであり、日頃の学習態度に対する指導の成果の表れであるといえる。今後は、プリントやファイルの整理整頓、課題の提出期限の厳守など、学力向上につながるような指導の充実を図っていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

本校においては、生徒の学習意欲の向上を図ることが最も大切であると考え、学習を義務的なものにとらえ、宿題や授業の課題はやっても、さらに知りたいと思うことを自分なりに追究したり、深めたりする姿勢が希薄である。「学習と生活のアンケート」においても、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対しては、肯定割合が市平均を下回っており、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意義」を実感させることが、学習意欲向上及び維持、ひいては「主体的に学習に取り組む態度」の育成につながるものとする。

教科書やワークブックが学習のすべてではない。普段の生活の中で好奇心をもったり、疑問に思ったり、自分の意見や主張をもったりする習慣を身に付けさせることが、すべての学習の基盤である。「学習と生活のアンケート」でも、「ふだんから『ふしぎだな』『なぜだろう』と感じることがある」の肯定割合は高いものの、「社会のできごとに関心があり、自分から進んで情報を集めることがある」「いろいろな種類の本を読むことは楽しい」といった質問は低調である。教師は、授業のみならず学校生活のあらゆる場面で問いを投げかけたり、考えさせたりする機会を設けることで、生徒の学習意欲を育てていく。生活面でも、「時間を守ることは、社会的にどういう意義があるのか」「友人の意見に耳を傾けることは、どれだけ自分のためになるのか」など、頭を使って行動する習慣を付けさせていく。

また、「生きていくために学ぶ」という学ぶ意義を実感させていくことも、学習意欲向上には欠かせない。次年度は、キャリア教育との一層の関連を図り、目標意識をもって学習に取り組ませていく。

以上のような取組を継続的に行っていくことで、生涯学び続ける上での基盤を築き、持続可能な社会の形成者としての資質を養っていきたい。